5、6年生と大学院

目指すは国家試験突破!
そのための臨床実習に向け、厳しい知識&技術試験が

今回の特集では、主に4年制の学部にスポットを当ててご紹介しましたが、医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科は6年制。それぞれ卒業後は医師、歯科医師、薬剤師の国家試験を目指します。それには5、6年次の臨床実習が欠かせません。そこで、臨床実習ができるレベルかどうかを審査する、全国一斉の共用試験CBTとOSCE(オスキー)が学部ごとに行われます。CBT(Computer-Based Testing)は知識を評価する試験で、学習したすべての領域から無作為に出題され、答えは選択式。OSCE(Objective Structured Clinical Examination)は客観的臨床能力試験で、患者対応や実技を見極める試験。つまり、知識と技術が一定レベル以上であると認められたうえで、初めて臨床実習が行えるのです。医学部と薬学部は4年生で、また歯学部では5年生でこのCBTとOSCE試験の規定点数をクリアして、臨床実習のステージへと進みます。そして、6年の卒業試験を経て、最大の難関である国家試験に挑むわけです。長崎大学の場合、いずれの国家試験の合格率も高水準で推移しています。

また、4年制学部で学んだ学生のなかにも、卒業後に大学院へ進学する道を選ぶ学生もいます。特に、薬科学科では卒業生のほとんど、工学部では卒業生の6割が大学院へ進みます。ここではさらに専門領域を極め、研究者になる道も拓けています。

卒業旅行

社会人になるその前に世界を見たい、思い出を作りたい

単位も卒研もOK。晴れて社会人となるその前に、やっぱり行っておきたいのが卒業旅行。昨年度医学部保健学科を卒業し、現在は看護師として長崎市内の病院に勤務している藤田桃子さんは、この3月、約1ヵ月ほどスペインや南米に卒業旅行をしました。

「一緒に卒業する大親友とスペインに2週間。自分がどうしても行きたかった南米には、周囲に呼びかけていろんな大学生とグループで2週間。ですから3月はほとんど海外でした。お金がかかるけれど、時間のあるうちに、と。特に看護師という職業柄、簡単には長期休暇がとれなくなります。貧乏旅行だったけれど、全国から集まった旅好きの仲間と友達になれて、最高の旅でした」。

在学中も様々なプロジェクトに参画した藤田さん。社会に出た先輩として、これから大学生活を始めるみなさんに応援メッセージをもらいました。「大学での自分のモットーは“欲求に忠実に貪欲に”。社会に出ると、まだうまく自分を出せず悔しい思いをすることもありますが、一方で大学でいろいろな方たちとの関わりを持ったことが活きている実感もあります。皆さんにも、大学時代に自分がやりたいことを好きなだけやっておくことをお勧めします。上限を決めずに、やれない理由なんか挙げずに。大学って、自分の知らない世界を知っている人が隣にいる場所。一歩踏み込んでみると面白い世界が広がっているし、その発見は、絶対に社会で役に立ちます」。

Graduation Trip

自分を見つめて自分で動く「個」の一年、仕上げの一年

Student Interview

経済学部4年 堂園智佑さん

＼僕らの経験が次の学生の糧になってほしい／

僕自身、3年生の就活の時に先輩たちにすごくお世話になり、おかげでこの春、ある都市銀行に就職が内定しました。その恩を次の世代に返したくて、今年度の「就活プロジェクト」に関わっています。就活はほんとにそれぞれ個人的な動き。僕は3年の夏休みにインターンシップを3ヵ所体験しました。自分にとって、仕事をする意味は何か、その答えを知りたかったのです。答えは見つかりましたよ。しかも僕はどうやら自分が主役になるより誰かを応援したい、それには銀行が一番自分に合っているということにも気づきました。就職が内定したので、あとは取り残した単位と卒業研究のテーマ「地方銀行の再編問題」に取り組みます。これまでの3年間に比べ、4年になると状況は個人でバラバラ、単位をとったら大学に出てこない人もいます。一緒に遊ぶこともないし、就活の厳しさも知っているから、お互い気を遣いますね。

長大生ならではの「心意気の伝達」

就活プロジェクト

長大には、就職先が内定した4年生が、就活を始める3年生を対象に自らの経験を語り、彼らのためにOBや企業を集めて情報提供する「就活プロジェクト」という自主企画があります。毎年春になると自然に4年生が動き出します。2005年度のリーダーで、今もOBとして関わる中村巌さんに聞きました。「就活って、経験してみないとわからないことだらけです。実際、東京の学生と比べ、OB訪問一つとっても長崎の地理的なデメリットは大きくて、一歩前にいく貪欲さが必要です。経験者と接触することで目覚めるきっかけになれば嬉しいですね。逆に、関わる僕らも仕事人としての自覚を再認識できますよ」。長大生らしい「心意気の伝達」が頼もしいタテのつながりとなって、現役学生たちを支えています。

まず、自分のまわりの壁をのりこえることですね。

鉄鋼系商社に勤める 中村巌さん

3年生後半から4年生、就活が本格化すると、リクルートファッションの学生がぜん多くなります。就活関連のイベントやセミナーも目白押し。無事就職が内定した学生のなかには、その仕事に役立つ資格の勉強を始める人もいます。そんなかなか、教育学部をはじめとする教員免許取得を目指す学生は、4年の7、8月に行われる教員採用試験に挑みます。もうひとつ4年生の大きな課題が卒業研究です。その提出期限は年明けですが、文字量も多くて厳しく精査されるため、一般的に4年の春くらいからテーマを決めて準備を始めます。卒研をクリアして卒業が確定すると、やっとひと息つけます。

この日の課題は「朝の挨拶をしない生徒にどう接するか」。具体的な問題のロールプレイングを行いました。

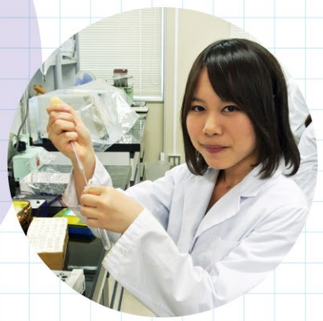
4年生

学部をあげて取り組む

教員採用試験対策特別講座

講義期間中は週2日〜3日。合宿や集中学習会になると毎日朝から深夜まで！ 教育学部では、4年の夏に行われる全国の教員採用試験に向けて、3、4年生を対象にかなり手厚い対策講座を行っています。内容は教職教養、面接や小論文、模擬授業対策、各専門科目の特別レッスンまで。希望者のみというものの、今年度は4年生の6割が参加しているとか。県教育委員会から出向したベテランの教師経験教員も協力しています。

＼これが私の実験ノートです／



実験と実験ノートで研究をさらに極める

薬学部は、6年制の薬学科と、学生のほとんどが大学院へ進む薬科学科で構成されており、4年生は専門的な実験が集中的に行われる大切な時期です。実験室をのぞいてみると、動物の組織試料を試験管で分析中の谷口麻里子さん(4年)、その隣の前田理恵さん(4年)のノートには細かな文字で実験記録がびっしり。STAP細胞騒動で、がぜん世間の注目を浴びることになった「実験ノート」の正しい書き方も、この時期に徹底的に叩きこまれます。薬剤にも強い特殊な紙質でできている実験ノートは、大切な公式記録なのです。